

死後の世界 第三部 死者の復活

第2章 大患難期の後の75日間【旧約時代の信者と大患難期の殉教者たちの復活】

第三部 死者の復活 のアウトライン

- 第1章 教会の携挙【新約時代の信者の復活】
- 第2章 大患難期の後の75日間【旧約時代の信者と大患難期の殉教者たちの復活】
- 第3章 メシアの王国【信者は肉体の死を経ずに全員が変換】
- 第4章 王国の後【不信者の（第二の）復活、不信者は第二の死へ】

□死者の復活には、第一の復活と第二の復活とがある。

1. 第一の復活・・・義人たち、すなわち信者たちの復活。メシアの王国が始まる前に完了する。
 - (1) 「第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である」(黙 20 : 6)。
 - (2) 「この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない」(黙 20 : 6)。
 - (3) この人々は、メシアの王国を経て、最終的に、新天新地の神の都にて、神と共に住む(黙 21 : 3)。

2. 第二の復活・・・義人ではない人々、すなわち不信者たちの復活。メシアの王国が終わった後、「大きな白い御座のさばき」の前に起きる。この人々の行先は、火の池。火の池に行くことは、第二の死とも呼ばれる。そこは、神から永遠に分離される場所。

□復活には、順番がある・・・第一と第二。さらに第一の中でも順番がある

1. I コリ 15 : 22～23 「キリストによってすべての人が生かされる。しかし、おのおのに順番がある。」
 - (1) 「すべての人」：ヨハネ 5 : 28～29 「墓の中にいる者がみな」、「善を行った者は、よみがえっていのちを受け、悪を行った者は、よみがえってさばきを受けるのです。」
 - (2) 「おのおのに順番がある」：第一と第二、さらに第一の中にも。「順番」と訳されるギリシヤ語は、軍隊用語。部隊単位で定められた行進や戦闘の順序を意味する。よって、第一の復活にあずかる信者たちが全員一斉に復活するというのではなく、おのおのが所属する部隊ごとに復活することを示す。

2. 第一の復活の中での順番

- (1) まず、初穂であるキリスト (I コリ 15 : 23)
- (2) 次に、キリストが来られるとき、キリストに属している者 (I コリ 15 : 23)

大患難期の開始＝イスラエルと反キリストとの七年契約

- (3) 大患難期が3年半経過したとき、二人の証人 (黙 11 : 3～12)

反キリストによる世界支配3年半、大患難期の終結＝キリストの再臨

- (4) 大患難期7年が終わったあと、旧約時代の信者たち (ダニ 12 : 1～2) 1節「苦難の時」＝大患難期、その後に、2節「ある者は永遠のいのちに」＝復活
- (5) 大患難期の殉教者たち (黙 20 : 4～6)

ラザロ (ヨハ 11 : 1～53)

イスラエルの指導者たちに対するしるし

ヨナのしるし

(マタイ 12 : 39)

■旧約時代の信者と大患難期の殉教者たちの復活・・・第一の復活、4・5番目の復活

1. 大患難期の後の75日間

- (1) 大患難期は全体で7年間（ダニ 9：27）
- (2) 前半の1260日【1か月30日で42か月＝3年半】（黙 11：3）
- (3) 後半の1260日【1か月30日で42か月＝3年半】（ダニ 12：7、黙 11：2、12：6、14）
- (4) 前半と後半を区切る事件は、反キリストがエルサレムにあるユダヤ人の神殿を占拠し、そこに自身の像を設置する。「荒らす忌むべきもの」とは、その像を指す（ダニ 9：27、マタ 24：15）。
- (5) 大患難期の後半
 - ① この後半期は、神殿に反キリストの像が設置される事件で、始まる。
 - ② 反キリストが、バビロンを首都にして全世界を支配する（黙 18：10）。
 - ③ 後半期の最後は、ハルマゲドンの戦い。この戦いは、メシアがヨルダン川東側のボツラに再臨して（ミカ 2：12～13、ハバ 3：3）、終了する。
 - ④ 大患難期の後半、この期間は1260日である。
- (6) ダニ 12：11～12によると、神殿から荒らす忌むべきものを取り除くまでに1290日、そして1335日に至る者は幸いである。
 - ① 1260日間の後半期が終わって、神殿から反キリストの像を撤去するまでに30日。よって、像が設置されていた期間は1290日。
 - ② さらに45日を経て、1335日に至る者は幸いである。すなわち、後半期が終わってから、30日と45日、計75日を生き延びる人々は、このあと、メシアの王国に入るといふ特別な祝福を受ける。
 - ③ 大患難期7年間を生き延びた人々の全員が、メシアの王国に入るわけではない。75日間の期間中に、メシアの王国に入る人とそうでない人が分けられる。それが、「異邦人の裁き」である。 → 2. (4)

2. 75日間に起きること

- (1) 反キリストに対する措置（Ⅱテサ 2：8～9、イザ 14：20、黙 19：20）
- (2) 偽預言者に対する措置（黙 19：20）
- (3) サタンの拘留（黙 20：1～3）
- (4) 異邦人の裁き（ヨエル 3：1～3、マタ 25：31～46）
- (5) 旧約時代の聖徒たちの復活（イザ 26：19、ダニ 12：2）
 - ① ダニ 12：1の「苦難の時」とは、大患難期の後半期を指す。この後に、復活が起きる。義人たちの復活とそうでない人々の復活である。
 - ② 教会の信者たちはすでに大患難期の前に携挙されている。ここで復活するのは、旧約時代の信者たちである。
 - ③ 義人ではない人々の復活は、75日間ではなく、メシアの王国の後である。
- (6) 大患難期の殉教者たちの復活（黙 20：4）「また私は、多くの座を見た。さばきを

与えられた人々がその上にすわった。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちのたましいとを、見た。彼らは生きた。そしてキリストと共に、千年の間、王となった。」

- ① さばきを与えられた人々＝教会の信者たち。携挙のときに復活の体を受けている。キリストの裁きを受けているので「さばきを与えられた人々」である。彼らは、「生きて」（「生き返って」ではない）、キリストと共に、千年の間、王となった。
- ② イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に獣の刻印を押されなかった人たちのたましい・・・彼らは、大患難期の前半期と後半期の殉教者である。「たましい」とあるので、まだ復活の体を受けていない。その彼らもまた、「生きて」、キリストと共に、千年の間、王となる。したがって、大患難期が終わって、メシアの王国が始まるまでの間に、彼らにも復活の体を与えられる。黙 20:5 によると、彼らの復活をもって「第一の復活」は完了する。

死後の世界 第三部 死者の復活
 第3章 メシアの王国【信者は肉体の死を経ずに全員が変換】

第三部 死者の復活 のアウトライン

- 第1章 教会の携挙【新約時代の信者の復活】
 第2章 大患難期の後の75日間【旧約時代の信者と大患難期の殉教者たちの復活】
 第3章 メシアの王国【信者は肉体の死を経ずに全員が変換】
 第4章 王国の後【不信者の（第二の）復活、不信者は第二の死へ】

□メシアの王国

1. メシアの王国についての預言
 - (1) イザヤ 2 : 2~4
 - (2) イザヤ 11 : 6~9
 - (3) イザヤ 65 : 17~25
 - (4) ミカ 4 : 1~4
2. メシアの王国における生死（イザヤ 65 : 17~25 を中心に聖書全体を総合して）
 - (1) メシアの王国が開始するとき、自然のからだを持っている人は、ユダヤ人も異邦人も、すべて信者である。
 - ① ユダヤ人は、メシアの再臨直前に、その時点で生き残っているすべてのユダヤ人がメシアを信じて霊的な救いを受ける。そして彼らは、王国に入る。
 - ② 異邦人は、異邦人のさばきを受ける。不信者である「やぎ」の人々と、信者である「羊」の人々とに分けられる。
 - ③ 不信者の異邦人たちは、そのさばきの後に死ぬ。霊魂はシェオルの中のアバドンへ。
 - ④ 信者である「羊」の人々は、メシアの王国に入る。
 - ⑤ 信者は、全員が、千年王国が終わるまで生き続け、誰も死なない。
 - (2) 王国時代の中で、ユダヤ人にも異邦人にも、次の世代の子どもたちが生まれ、育つ。彼らの内側には、両親から引き継いだ罪の性質が引き継がれている。彼らもまた、聖霊によって新生する必要がある。
 - ① 王国時代においては、100歳になるまでに信じる必要がある。
 - ② もし100歳までに信じなければ、生き続けることはできない。
 - ③ 信じたならば、その人は千年王国が終わるまで生き続け、死ぬことはない。
 - ④ エレ 31 : 31~34 により、千年王国ではユダヤ人の不信者は一人もいないと預言されている。
 - ⑤ 従って、千年王国で死ぬのは、異邦人の不信者だけである。
 - (3) 千年王国の信者たちは、死を経ないで、次の永遠の秩序に入る。それが可能となるのは、変換である。彼らは千年王国が終わる時点か、それまでのある時点か、いずれにせよ、栄光の体に変換されるであろう。

3. メシアの王国における政体

(1) 王：メシア、主イエス

(2) 異邦人部門の政府

- ① 教会と大患難時代の殉教者たち（黙 20：4～6）・・・メシアの共同統治者
- ② 諸国の王たち（詩 72：10～11）・・・彼らは復活の体ではない

(3) ユダヤ人部門の政府

- ① ダビデ・・・王（キング）であり（エレ 30：9）、君（プリンス）である（エゼ 34：23～24）、（キングであり、プリンスである エゼ 37：24～25）
- ② 十二部族を治めるのは、十二使徒（マタ 19：28）・・・彼らはメシアと食卓を共にする（ルカ 22：28～30）
- ③ 君（プリンス）たち（イザヤ 32：1、エゼ 45：8）・・・ゼルバベル（ハガイ 1：23「印形のようにする」（指輪につける印鑑）→高い地位に着くことを示唆している）
- ④ さばきつかさ・議官（イザヤ 1：26）・・・特にエルサレムに置かれる。彼らの働きにより、エルサレムには不法行為は全く起きず、「正義の町、忠信な都」と呼ばれる。

死後の世界 第三部 死者の復活
第4章 王国の後【不信者の第二の復活、そして第二の死へ】

第三部 死者の復活 のアウトライン

- 第1章 教会の携挙【新約時代の信者の復活】
 第2章 大患難期の後の75日間【旧約時代の信者と大患難期の殉教者たちの復活】
 第3章 メシアの王国【信者は肉体の死を経ずに全員が変換】
 第4章 王国の後【不信者の（第二の）復活、不信者は第二の死へ】

□王国の後

1. サタンが解き放たれ、イスラエルへの最後の攻撃を行う（黙 20 : 7~9）
 - (1) 反乱軍がエルサレムを包囲したその瞬間、天からの火が彼らを焼き尽くす。
 - (2) 人間が肉体の死を受けるのは、この反乱軍の人々が最後である。
2. 大きな白い御座のさばき（黙 20 : 10~15）
 - (1) 預言の順序
 - ① 結末（黙 20 : 10）・・・サタンが火の池に投げ込まれる。
 - ② その結末にいたる経緯（黙 20 : 11~15）
 - (2) 裁きを受ける人々・・・黙 20 : 5「そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返らなかった」→千年王国が終わると、不信者は全員が復活する。第二の復活である。そして、黙 20 : 12「死んだ人々が、大きい者も、小さい者も、御座の前に立つ」
 - (3) さばきには軽重がある（マタイ 11 : 20~24、ルカ 12 : 47~48、ヨハ 19 : 11）
 - (4) 軽重を決定する書物（黙 20 : 12）
 - ① いのちの書（詩 139 : 16、黙 3 : 5、詩 69 : 28）・・・人が生まれると名前が記され、信じないで死んだら、名前が消される。よって、名前が「いのちの書」にはないことが、さばきにおいて確認される。
 - ② いのちの書以外の数々の書物・・・各人の言動や応答が記録されている。これにより、さばきの軽重が決まる。「人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた」（黙 20 : 13）
 - ③ 注意：「小羊のいのちの書」（黙 13 : 8、17 : 8b）＝詩 69 : 28「義人の書」・・・これは、①の「いのちの書」とは別の書物である。「小羊のいのちの書」あるいは「義人の書」と呼ばれる書物は、神の予知によって記された書物である。そこには、信者となる人の名前が、その人の生まれる前、世の初めから記されている。
 - (5) 黙 20 : 14「死とハデスとは、火の池に投げ込まれた」・・・死は肉体の死、ハデスは靈魂が苦しむ場所である。火の池は、人が肉体と靈魂の両方を共にもって、永遠に神から分離されて苦しむ場所であることを表現している。これが、第二の死、永遠の死である。

死後の世界 第四部 新しい天と新しい地での永遠の生活

アウトライン

1. 古い天と地は消え去り、新しい天と地が創造される
2. 永遠の新しいエルサレム

□古い天と地（古い秩序）は消え去り、新しい天と地（永遠の秩序）が創造される

1. 地も天も、消え去る（黙 20 : 11）
 - (1) 創世記 1 : 1 で創造された天（複数形）と地は、消え去る。天とは、第一の天と第二の天、すなわち大気圏と宇宙空間である。天が消え去ることで、第二の天に置かれていた太陽、月、星もなくなる。
2. 大きな白い御座のさばきが行われる（黙 20 : 11～15、10）
3. 新しい天と新しい地が創造される（黙 21 : 1）
 - (1) 新しい地には、海がない。
 - (2) 「以前の（第一の）地」に、海があったのはサタンの墮落と関係する。
 - ① 創世記 1 : 1 で創造された地には、最初、「美しい宝石でおおわれた神の園、エデン」があった。その宝石のエデンは、墮落前のサタンに与えられた場所であった（エゼ 28 : 11～16）。
 - ② サタンの墮落によって、サタンの権威の下にあった地もまた、さばきに服した。その結果、創世記 1 : 2、大水（海）が地を覆うことになった。
 - (3) 神学では、古い天と地を「古い秩序」、新しい天と地を「永遠の秩序」と呼ぶ。
4. 新しいエルサレムは、新しい地ができてから建設されるわけではない。前もって、第三の天の中に準備されていて、神のみもと、すなわち第三の天から出て、新しい天を通り、新しい地の上に向かって来る（黙 21 : 2）
 - (1) 第三の天の中に準備されている都について
 - ① ガラ 4 : 26 「上にあるエルサレム」
 - ② ヘブル 11 : 9～10、「堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。」、11 : 16 「天の故郷（ギ）パトリス 父の地）にあこがれていたのです。・・・事実、神は彼らのために都を用意しておられました」
 - (2) ヘブル 12 : 22～24・・・「生ける神の都、天にあるエルサレム」の中に、誰がいるのか、何があるのか
 - ① 万民の審判者である神、新しい契約の仲介者であるイエス。聖霊なる神については言及しないが、「生ける神の都」であるから、永遠の三位一体の神がおられ、したがって聖霊なる神もおられる。
 - ② 無数の御使いたち（聖なる天使たち）

- ③ 天に登録されている長子たちの教会＝初代教会のユダヤ人信者たちの教会。それに共に与かることになる異邦人信者たちも、連なっている。よって異邦人信者も含む教会の聖徒たちは、この都の住民である。
 - ④ 全うされた義人たちの霊・・・旧約時代の聖徒たちである。彼らもまた信仰によって義人とされ救いを受けたが、彼らが完全にされたのは、メシアの十字架での死によってである（ヘブ 9：15）
 - ⑤ 大患難期と千年王国時代の聖徒たちについては言及されていないが、彼らもまた都の住民となるであろう。
 - ⑥ この都にあるものは、「シオンの山」、「アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血」である。
5. 御座におられるお方から、第一の宣言が発せられる（黙 21：3～4）
- (1) 3 節 神の幕屋が、人と共にある。・・・新しいエルサレムは、神と天使と人が、いっしょに住まう永遠の住まいである（ヘブ 12：22～24）。かつて荒野の幕屋の中にシャカイナ・グローリーが輝き、イスラエルの民の中に神がお住まいになったように、新しいエルサレムでは神が人と共にお住まいになる。
 - (2) 4 節 アダム の 墮落 によっ て 課 せ ら れ た 呪 い（創世記 3：16～19）は、取り除かれる。以前のもの（古い天と地）が過ぎ去るとともに、古い秩序の呪いの効力もすべて取り除かれる。
6. 第二の宣言が発せられる（黙 21：5～8）・・・神のわざに関する宣言
- (1) 5 節 すべてを新しくする＝新しい天と新しい地を創造する。将来、これを行うと約束するお方は、「わたし」＝神であり、信頼されるべきお方、真実なお方である。
 - (2) 6 節 新しいエルサレムには、「いのちの水の泉」が備えられている。
 - (3) 7 節 信者は、新しい天、新しい地、そして新しいエルサレムを相続する。
 - (4) 8 節 不信者が受ける分は、火の池の中にある第二の死である。

□永遠の新しいエルサレム

- 1. 新しいエルサレムが、神のみもと、すなわち第三の天から出て、新たに創造されたばかりの天を下り、地の上に置かれる（黙 21：9～10）
- 2. 新しいエルサレムの描写（黙 21：11～22：5） 11 の項目
 - (1) 11 節 都には神の栄光があった。その輝きは、高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。・・・神の栄光とは、シャカイナ・グローリー、すなわち神ご自身の臨在を示す栄光である。新しいエルサレムは、神の永遠の住まいである。
 - (2) 12～13 節 都の城壁・・・敵がいるわけではなく、神によって守られていることの象徴である。「大きな高い城壁」とあるが、その具体的な大きさや高さは、17 節。
 - ① 城壁には、12 の門がある。
 - ② それぞれの門にひとりの天使がつく。天使は単なる門番ではなく、天使の権威によって門が守られていることを示す。

- ③ 12の門には、イスラエル12部族の名が付けられる。イスラエルの部族名は、永遠に記念される。
- ④ 城壁は4面から成る。それぞれの面に3つの門がある。
- (3) 14節 城壁の土台石・・・永続することの象徴である。12の土台石には、12使徒の名が記される。彼らの名もまた、永遠に記念される。
- (4) 15～17節 都の測定・・・広々としていることを示す。
- ① 都は正立方体であり、長さ・幅・高さが等しい。
- ② その1辺は、12,000スタディオン=2,220 km
- ③ 人類史上、最大の都であることは、明らかである。すべての時代の信者たちを全員、収容するに足る規模である。
- ④ 城壁の高さは、144ペーキュス=64.8m(マンションビルなら16～21階建て)。城壁としても並はずれた高さであるが、正立方体の都の高さは2,220 kmであり、城壁の高さの34,259倍である。
- (5) 18～21節 都の建設材料
- 碧は青・緑、ブラッドストーン=濃緑色？
- ① 城壁は、碧玉(へきぎょく) 英Jasper (ジャスパー) =不透明・褐色
- ② 正立方体の都は、「透き通った純金」
- ③ 城壁の土台石12個は、宝石で飾られていた。ひとつひとつの土台石に用いる宝石は別々に決められていて、12個の土台石の色合いを個性的にしている。
- | | | |
|------------|----------------|------------|
| 1. 碧玉 | ジャスパー | 褐色、または濃緑色 |
| 2. 青玉 | サファイア(ラピス・ラズリ) | 青、るり色 |
| 3. 玉髓 | カルセドニー | 淡い緑、ラベンダー色 |
| 4. 緑玉 | エメラルド | エメラルドグリーン |
| 5. 赤縞めのう | サードニクス | 赤と白 |
| 6. 赤めのう | サーディウス(カーネリアン) | 火の色、透明感ある赤 |
| 7. 橄欖石 | クリサライト | 黄色・金色がかった緑 |
| 8. 緑柱石 | ベリル(アクアマリン) | 淡い青 |
| 9. 黄玉 | トパーズ | オレンジがかった黄色 |
| 10. 緑玉髓 | クリサプレイズ | 金色がかった緑 |
| 11. ヒヤシンス石 | ハイアシンス(ジルコン) | 青紫色、赤、オレンジ |
| 12. 紫水晶 | アメシスト | 紫色 |
- ④ 12の門は、それぞれ一つの巨大な真珠でできている
- ⑤ 都の大通り(単数形)は、正立方体の都そのものと同じ、透き通った純金
- (6) 22～23節 新しい地には、ないもの
- ① 神殿・・・必要ない。神は贖われた人々とともにお住まいになる。
- ② 太陽と月・・・永遠の秩序における光源は、被造物である太陽や月ではない。光の創造者ご自身によって供給される光である。小羊のシャカイナ・グローリーである。
- 24節 諸国の民、地の王たちが、シャカイナ・グローリーに照らされる・・・「諸

国の民」とは異邦人の民族を指し、「地の王たち」とは、千年王国で異邦人諸国の王であった人たちである。第一世代は、《大患難期において信者となり、千年王国に入った異邦人たち》。そして《彼らの子孫として生まれ、100歳になるまでに信仰をもって霊的救いを受けた、千年王国時代の異邦人信者たち》から成る。

(7) 25～27節 都に入ること

- ① 都の城壁の周囲には、12の大真珠の門があり、それぞれの門に天使がひとり、配置されている。12の門は、決して閉じられることはない。永遠に開けられたままである。
- ② 夜は、ない。・・・サタンが墮落した結果、地は大水＝海におおわれた。その海の上には、暗やみがおおっていた（創世記1:2）。海と暗やみに地がおおわれたのは、サタンの墮落による呪いが地に及んだためであった。古い秩序においては、暗やみは部分的にしか除かれなかった。昼は太陽により、夜は限られた照度ではあるが月と星によって、であった。永遠の秩序においては、完全に暗やみは取り除かれる。
- ③ 26節 24節の異邦人の人々は、新しい地の上の「諸国」に住んでいて、都にやって来て入ることができる。
- ④ 27節 信者でない者は、誰一人として都に入る者はいない。なぜなら、彼らの名は、「小羊のいのちの書」に記されていない。彼らは、火の池に閉じ込められているからである。

(8) 22:1～2a いのちの水の川

- ① 神と小羊（メシア）の御座から、一本の川が流れ出している。
- ② その川は、水晶のように光る。
- ③ その川は、都の通り（単数形）の中央を流れている。

(9) 22:2b いのちの木

- ① 川の兩岸に、いのちの木（単数形）がある。
- ② いのちの木は、かつてエデンの園にあった（創世記2:9、3:22、24）。それが戻ってくる。
- ③ 木の幹は、川の兩岸に伸びている。豊かな生産力を示す。毎月フレッシュな実がなる。「月」という用語が使われていることから、永遠の秩序においてもなんらかのカレンダーがあるものと推定される。
- ④ その木の葉は、諸国の民（異邦人）を「いやす」ためのものである。「いやす」と訳されている用語は、「健康によい」とか「リラックスさせる」といった意味もある。永遠の秩序には病気は存在しないので、その意味。
- ⑤ 永遠の秩序においても、ユダヤ人と異邦人の区分は続く。ただし、千年王国とは異なり、ユダヤ人が異邦人の上に立つといった関係はもはやない。永遠の秩序においては、両者に、地味的な差はない。

(10) 22:3～4 新しいエルサレムの住民すべての額に、イエスの名がある。

(11) 22:5 夜はない。神の栄光に照らされるので、太陽もランプもいらぬ。神の栄光の中で、人々は永遠に支配する（創1:26の完成）。